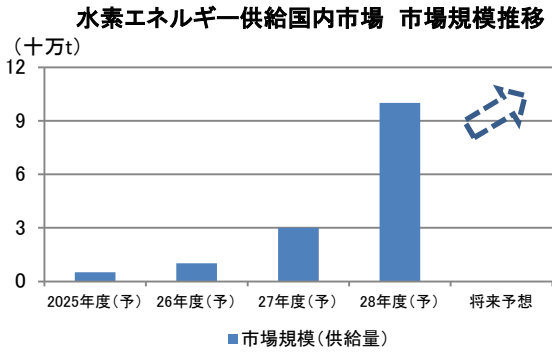


業界アウトライン

・政府の「GX 実現に向けた基本方針」では、再エネの主力電源化のほか、水素分野での国家戦略の策定を含む包括的な制度設計や、カーボンリサイクル燃料等、GX に向けた研究開発・設備投資・需要創出等の取組を推進している。

注目市場

水素エネルギー供給市場



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

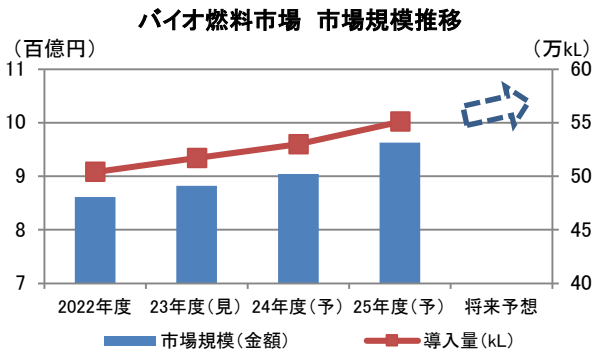
- ・2025 年度の水素エネルギー供給国内市場規模 (国産水素+輸入水素) は、5 万 t と予測される。
- ・水素の利用は工業用途が中心であったが、近年は「燃焼時に CO₂ を排出しない」という特性から、エネルギー用途での利用促進を目指す動きが国内外で広がっている。
- ・海外で大規模な水素製造設備の開発プロジェクトが立ち上がっており、国内供給量の一定量が輸入水素になるとみられる。

■業界動向/事業者動向

- ・国内では、産業、運輸分野等におけるカーボンニュートラル実現のキーテクノロジーとして水素が位置付けられており、利活用促進や供給量拡大に繋がる技術開発及び実証事業の取組が広がっている。
- ・関東や東海地方などにある沿岸部の工業地帯では、基幹電源や工場において水素需要が見込まれ、低コストの水素を大量に調達する必要があるため、輸入水素をベースに水素利用が進むとみられる。一方、北海道や東北地方など再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域では、再生可能エネルギー由来の電力と水電解で製造したグリーン水素を活用した地産地消型の水素利用が中心になるとみられる。

注目市場

バイオ燃料市場



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2023 年度の水素エネルギー供給国内市場規模は、882 億円 (対前年度比 102.4%) と見込まれる。
- ・バイオ燃料の主な種類としては、バイオジェット燃料 (SAF) やバイオディーゼル、バイオエタノールなどがある。航空業界のように液体燃料を大量に使用し、かつ現在の技術水準では他の動力源への転換が難しい産業では、CO₂ 排出量を削減する方法として SAF 活用への関心が高まっている。

■業界動向/事業者動向

- ・バイオディーゼルやバイオエタノールは車両などで国内での採用実績がある。SAF は、国内大手航空会社においてニーズが出てきており、その対応のため、国産化の取組が進められている。
- ・SAF 国産化は、原油・石油事業で培った技術やインフラ、ノウハウを活用できる石油元売などを中心に、中長期的な視点で製造体制の構築を進めている段階にある。供給体制の整備に伴い、国産 SAF の製造量は 2020 年代後半から増加していくと予想されるが、当面は輸入 SAF を組み合わせることで国内必要量の確保を図りつつ、中長期的に国産 SAF を中心とした体制にシフトすることが必要とみられる。